

あいち平和のための戦争展報告

山本みはぎ

8月11日から14日まで、市民ギャラリー矢田で、「あいち平和のための戦争展 2022」が開催されました。今年、不戦ネットでは「抑止力は戦争への道」をテーマのパネル展示をしたほか、ピースステージの企画として、半田滋さんを講師に「どこまで軍事大国化する？日本」をテーマに講演会を企画しました。

パネル展示 はじめに

7月22日にでた防衛白書の別冊に、「平和を生む抑止力」と題した特集を組み、中国やロシアへの脅威をあり、大軍拡の必要性を主張しています。2015年9月の安保関連法(戦争法)の強行採決で集団的自衛権の行使ができるようになり、2018年に防衛大綱で実質的な「敵基地攻撃能力」可能な武器の装備の購入や開発、共同訓練などが加速度的に進んでいます。南西諸島には自衛隊にミサイル基地建設が進み、九州の基地では日米の統合運用が進んでいます。私たちは「抑止力＝軍事力では平和はつくれぬ」と主張してきました。再び、沖縄・南西諸島を捨て石にする戦争に進むことは絶対に阻止しなければならないと考えます。

展示の目的(パネルからの抜粋)

- ①米軍の作戦計画も自衛隊の作戦計画も南西諸島に住む住民の生命も生活を無視せずには実行できません。77年前の地上戦の記憶は「日本は我々をまた捨て石にする気か」と私たちに突き付けています。
- ②九州の基地群が南西諸島の後方支援地域となり、同時に司令部となります。これは南西諸島だけではなく、九州も戦場になるということを示しています。
- ③戦前の「帝都東京」を守るための捨て石作戦計画です。
- ④米軍から見れば、島々がそれぞれ不沈空母として位置付けられ、日米の相互運用性により、米軍基地・自衛隊基地の相互利用の強化・一体化が迫られています。
- ⑤対中国への米軍中距離核ミサイル配備計画が強行されようとしています。「核共有」どころか、破滅の日中関係が生まれてしまいます。